

# 阿蘇の草原をめぐる動きと草原保全のための施策

3年間にわたる参加型国立公園環境保全活動推進事業の進展とともに、草原シンポジウムの開催、草原維持作業の体験交流会、阿蘇グリーンストック活動の展開、草原奨励金など、阿蘇の草原をめぐる様々な動きがみられるようになった。

草原保全のためには、畜産振興をベースにしながらも、より広範な人々の手で支えていくしくみづくりに向けて幅広い施策が期待される。

〔草原をめぐる動き〕

〔参加型国立公園環境保全活動推進事業の経緯〕

## 平成8年10月 第1回草原懇話会 開催

阿蘇くじゅう国立公園内の優れた景観を維持していくための長期的方向について幅広い観点から検討を進めるため、「草原懇話会」を設置、第1回懇話会は「国立阿蘇青年の家」にて公開形式で開催、約300人の参加があった。

## 平成9年3月 第2回草原懇話会 開催

阿蘇町赤水原野において地元の原野管理組合の協力のもと、270人が参加して野焼きを体験し、草原維持作業への認識を深めた。続いて交流会を行った。

## 平成9年6月 第3回草原懇話会 開催

熊本市内の「熊本テルサ」において、草原の様々な価値や維持管理の方向について議論した。県・町村関係者など130人が参加した。

## 平成10年3月 タテ原野焼きの実施

阿蘇に隣接する飯田高原タテ原で、地元観光協会等の団体が牧野組合の協力のもとに実施する野焼きに協力し、ボランティア主導型の野焼き体制について検証を行った。作業へは約60人が参加した。

## 平成10年7月 パンフレット「阿蘇の草原はいま...」

「参加型国立公園環境保全活動推進事業中間報告一」を作成、配布

## 平成11年3月 参加型国立公園環境保全活動推進事業報告書とりまとめ

## シンポジウム

## 野焼き・輪地切り 体験・交流会

## 阿蘇グリーンストック財団の活動

## 熊本日日新聞 55周年記念キャンペーン 「阿蘇千年の草原」



第2回草原懇話会 野焼き体験・交流会



阿蘇千年の草原シンポジウム (H9.10 熊本市)  
くもと楽座評定会・熊本日日新聞社主催

阿蘇町開湯100年記念シンポジウム (H10.3 阿蘇町)  
阿蘇町・熊本日日新聞社・阿蘇町開湯100年ルネサンス実行委員会主催

阿蘇の草原を守る人々の声を聞く会 (H10.8 一の宮町)  
阿蘇の自然を愛護する会主催

草原と農業の新たな展開 そして都市との共生  
(H10.9 産山村) 九州農政局・同交流会実行委員会主催

産山村上田尻原野で「輪地切り」体験・交流会開催  
(平成9年より)

一の宮町町古閑原野の野焼きに地元阿蘇高校国際観光科の生徒が参加  
(平成10年)

阿蘇グリーンストックでは野焼き支援のため体験・研修希望者を募集。平成11年2月に作業研修会を実施、3月の野焼きシーズンには5町村12牧野組合へボランティアを派遣

- 平成8年、あか牛産直事業をスタート。
- 平成9年、阿蘇の草原・森林を護るトラスト基金奨励金開始
- 平成10年、阿蘇の自然や農的営み、歴史・文化を地元住民・都市住民と一緒に学ぶ阿蘇大学(グリーンストック市民講座)を開校
- 野焼き・輪地切りボランティアの組織化、牧野組合の野焼き・輪地切りの実態調査(熊日草原基金の助成による)

平成9年からのキャンペーンに続き、平成10年には「守ろう千年の草原 阿蘇の草原奨励金」を展開、集まった奨励金2,950万円は以下の各事業に活用。

- ①野焼き・輪地切りのボランティア育成
- ②草原保全の基礎資料とする草原・牧野組合実態調査
- ③草原のすばらしさや危機の実態を訴えるビデオ制作
- ④シンポジウムやイベントの支援、輪地切り機械化試験
- ⑤野焼きに使用する「ジェットシューター」100台購入

〔草原保全のために期待される活動・施策例〕

## 畜産の振興

- 預託放牧・周年放牧・一貫生産の普及活動と技術的支援
- 入会慣行の見直し
- 「あか牛産直販売」や「あか牛」ブランドの確立など、流通システムの見直し

## 広範囲な人々が維持管理を支えるしくみづくり

- 関係公共団体・牧野組合代表者等による連絡協議会の結成
- 水源流域によるあか牛のオーナー制度づくり
- 野焼き・輪地切り作業へのボランティア派遣制度づくり
- 農業と一体となったツーリズム産業の展開

## 社会的関心・理解の獲得

- シンポジウムの開催
- 都市住民との交流と理解促進のための野焼き体験・交流会の開催
- 草原に関する調査研究の推進と情報の一元化

## 資金援助

- 野焼き・輪地切りへの経費助成
- 水源下流域住民の費用負担・水源基金づくり
- 観光産業からの資金還流のしくみづくり

## 維持管理作業負担軽減のための基盤整備

- 維持管理作業省力化・機械化への支援
- 防火帯作業道の整備
- 草地・樹林地区分の明確化など土地利用の整理

※ 注記 阿蘇グリーンストック財団：

貴重な阿蘇の生命資産（水と緑＝草原・森林・農地等）を護り後世に受け継いでいくため、農村と都市の連携による様々な活動を行うことを目的として、平成7年に設立された団体。